

◇ 地区福祉推進会議からの提言

- ・特になし

◇ 地区福祉推進会議から寄せられた意見

【人材育成】

- ・地域による福祉活動の推進（Ⅱ-2-(2)-②ボランティアなどの人材の掘り起しや育成）
- 公民館長から校区社協へ、地域の要支援者情報を毎年提出してもらってはいるが、公民館長と民生委員の連携が重要。1年交代の公民館長は、地域のことも全部は把握できず、見守り活動の実態も分からない、要支援という意味も判らない現状がある。（松元地区）
- 各地域で継続して取り組んでいくなかでは、リーダーを新しくした時には、次世代リーダーに対しどう情報をつなげるのかという課題がある。（中央地区）

【情報提供】

- ・福祉サービスの充実と利用促進（Ⅰ-2-(1)-②地域福祉活動の情報提供）
- ・地域による福祉活動の推進（Ⅱ-2-(2)-③ボランティアなどの活動情報の提供）
- 市社協ボランティアセンターでは、ボランティア講座を開催しており、講師派遣の手配の説明や団体等へのつなぎ役を行っている。（中央地区：講師派遣）
- 保健センターでは、一般の方を対象に公募し、養成講座を受講していただいた方に運動普及推進員として運動の普及活動をしていただいている。また、保健師が健康に関する講話を行うこともあり、視覚障害者を対象にした生活習慣病に関する講話依頼を受けたことがある。その際には、腹囲が1cm増えると体脂肪が1kg増えるということを、肉の塊の模型を実際に触ってもらい、講話を行った。（中央地区：講師派遣）
- 福祉に関することをひとつにまとめたリストが無い。例えばこの辺りにはこのような方がいるというような市政出前トークの地域福祉版のような一覧表のようなものがあればいいのでは。（中央地区：講師派遣）
- 「支えや働きかけ」を必要とする方が「どこをどのように利用すればよいのか」、地域の中で生活の困りごとを解決するために「この地区にはこういう『居場所』がある」、「ここに相談すれば、認知症サポーターの方が活動をしているところにつないでもらえる」といったように、困った時に活用できるネットワーク、仕組みを、全域的にホームページ等でもアクセスできる情報があれば、問題解決、困りごとの解決に役立つのではないかと。（谷山地区）

【障害者支援】

・地域におけるバリアフリーの推進（Ⅳ-1-1-(2)-①互いに認め尊重しあえる環境づくり）

- 西田校区社協では様々なイベントに障害者の方に呼びかけをしているが、なかなか足を運んでもらえない。まず、障害者の“心のバリアフリー”が一番大事ではないかと考える。障害の程度もあるかもしれないが、心の解放も福祉に取り組む者の大きな課題である。（中央地区）
- 障害を持った子どもたちは、行事にほとんど参加しない。もっと積極的に表に出すような雰囲気づくりが必要。家族にどのように説明するのが行事等への参加につながるのか、それをどのように連携していくのが課題である。（中央地区）
- 高麗町では校区社協の役員をされていた方が老人クラブで活動しており、手話を使った勉強に取り組んでいる。手話を通して社会貢献や地域とのつながりができると考えている。（中央地区）

【子育て支援】

・福祉サービスの充実と利用促進（Ⅰ-3-(1)-③子ども・子育て支援サービスの利用促進）

- 紫原では、ひとつの保育園（支援保育園）が主体となり、子育て支援会議を年3回開催している。様々な機関の保健師や大学の先生、地域福祉支援員等から情報をもらい、互いに話し合いができる。（中央地区）
- 星ヶ峯地域では年12回の「子育てサロン」を開催しており、この「子育てサロン」を通じて、子どもの発育状況を見て、必要があると感じた時には、南部保健センターの方（年3回参加）に個人的に話をしてもらうなど、児童発達支援の利用等につなげている。（谷山地区）
- 産婦人科を持つ病院との連携をすることで、「子育てサロン」につなげていくことができればいいのではないかとと思う。（谷山地区）
- KTS（鹿児島テレビ）がさまざまな企業と連携して「はじめてばこ（Smile Baby Project）」という新生児に贈り物を届ける取組を行っているが、そういったものと連携して、その中に「子育てサロン」の案内を入れてもらうとかいうのもいいのではないかと。（谷山地区）
- 家庭にこもって出てこない方への援助が難しいと感じている。特に父子家庭は状況がつかみにくく、情報をどの程度伝えてよいのかなど分からない現状があるが、父子家庭の方たちが集まって父親グループとして情報提供しているところもあるようだ。子育てサロンに父親が参加してくれるよう、もう少し考えてみてもよいのではないかと。（吉野地区）

【見守り活動】

・地域における福祉と関連分野との連携（Ⅲ-1-(2)-③見守り体制の充実・連携）

- 散歩をする高齢者の方に、子供の見守りを兼ねるため下校時間に合わせて散歩をお願いしている。（伊敷地区）
- 大人からの率先したあいさつ運動は、防犯などの面からも大事なことである。（喜入地区）

【マップ作成】

・福祉サービスの充実と利用促進

(Ⅰ-2-(1)-③福祉マップの作成による情報収集・提供)

・地域における福祉と関連分野との連携

(Ⅲ-1-(2)-⑤支え合いマップづくりによる現状把握と取組の検討)

- 東桜島地域ではマップ作りに早くから取り組んでおり、高齢者宅を地図に書き、留守にする時には町内会長や民生委員などに声をかけるようなルールを作っている。(桜島地区)
- マップづくりで問題になるのは、プライバシーの保護である。どこまでの範囲の人が情報を共有すればよいのか。今のところ、公民館の役員と民生委員までを範囲としている。地域の皆さんで情報を共有するとなれば、プライバシーの保護の面で難しい。(桜島地区)
- マップ作りが目的ではなく認識の共有が目的である。作っただけではただの表に過ぎない、なぜマップが必要かを考える必要がある。(郡山地区)
- 災害時の助け合いマップには殆ど個人情報が必要ないが、見守りマップには個人情報が必要。色々な情報を集めてくると次第に災害マップが見守りマップになってくる。(郡山地区)

【その他】

- 支え合いが必要な方の情報が個人情報の関係で行政から手に入らない。(中央地区)
- 他の校区社協の活動状況が分からない。年度初めの町内会長の集まりの時に、他の校区の活動事例を紹介してみてもどうか。(伊敷地区)
- 自治会長が全員集まる機会に取組みをしている団体を表彰すれば認識が上がるのではない。(郡山地区)
- 意見表から、草牟田は意見を伝える力があるリーダーがいることが分かる。地域福祉のリーダー力として必要なのは、外に情報を発信ができるようにする為に、どう支援するのかということもある。(中央地区)
- 保育所などと老人クラブの交流促進が図られていないようだが、小山田地区では保育所ではなく、児童クラブと老人クラブで交流を図り喜ばれている。(伊敷地区)
- 老人クラブが少ない。お達者クラブの活動をしている団体へ声かけし、充実させる必要があり、メリットについてもっと周知されることを希望。(松元地区)